本業を見据えた工夫を

の影響は全国の観光地にも大打撃を与えていると聞きます。海外では渡航自体が不可能になっているところもありますし、日本でも毎日感染情報が流れています。

このような状態では黙っていてもお客様は来てくれません。お客様に来ていただくために、策をとっていただけるよう、自分と勉強に出たいと思っております。

な企画が良いのではないでしょうか。大型イベントは中止を強いられているところもありますが、旅館ホテルは工夫さえすれば安心してお泊まりいただける空間をつくることです。今はこっそり違う場所にアルバイトに行ってお金を稼ぐことを考えている者もいます。自分の本業を見据えしっかりと情報や知識、人の輪を広めるために時間を費やしてほしいものです。

また、売り上げが落ちる時期にイベントをするのも良いでしょう。私の旅館でも年に数回、季節に応じたイベントを行っておりますが、たいへん好評を得ています。日本の四季をゆっくり楽しみたいというお客様はまだまだ多いものですが、今は旅館ホテルやショッピングモール、様々なところで四季のイベントをしています。自分のホテルならではの企画を出さなければなかなかお客様は集まりません。

今回、撮影ロケに出向かせていただいたエジプトの料理をアレンジしたものを出したいと思い、検討中です。こうして定期的に海外にも行かせていただき、普段目にすることの少ない料理とこぼれ話で楽しんでもらえたらと思っております。

ゴールデンウイーク、夏休み、オリンピック…まだまだ集客をすべき時はあります。まだ結末の見えない今の状況ではありますが、皆さま頑張っていきましょう。

（大田忠道＝料理人集団「天地の会」代表）

下船希望者はわずか10人ほどだったダイヤモンド・プリンセス

池田 良穂（大阪経済法科大学客員教授）の

新クルーズ学 ▶25◀

ダイヤモンド・プリンセスのウイルス禍

年間を通して日本発着クルーズを行っている「ダイヤモンド・プリンセス」の船内で、新型コロナウイルスの集団感染が発生した。

同船が横浜港を出港して2週間あまりの東南アジアクルーズに向かったのが1月20日。乗客の中に香港から空路来日して乗船し、1月25日に香港で下船した客に新型コロナウイルス感染が判明した。ちょうど同船が2月1日に那覇に寄港中のことだった。乗客乗員の検疫および入国審査も那覇で済んでいて、後は予定通りに横浜まで帰るはずだったが状況は一変する。日本政府は再検疫を決定し、船はスピードを上げて2月3日夜には横浜沖に到着して、症状のある273人の再検疫が行われた。

その結果、10人の感染者が判明して、4日朝から乗客全員の2週間の客室隔離が始まった。隔離終了までの間、感染者が連日判明したが、これは症状のある人だけに五月雨式に検査を行った結果であり、専門家は船室での隔離開始後の乗客間での感染は防げたと判断して、ウイルス検査が陰性だった乗客の帰宅が19日から順次行われた。この時点での感染者数は621人に上った。

最初の感染者が横浜乗船時には症状がでていたことから、16日間のクルーズ期間全体にわたって船内で感染が広がったこととなり、1人が1・5人に感染を広げると600人を超える計算になる。この数字からすると、政府の水際対策がクルーズ客船については成功したこととなる。

中国での事例によると潜伏期間が2週間を超えるのは2%あまりであり、隔離終了後に感染が分かった乗客は4人なので想定以下の確率となっている。

これまでもクルーズ客船では、レジオネラ菌、ノロウイルス、インフルエンザの船内感染があり、レストラン入口での手の消毒や手洗いは陸上のレストラン以上に徹底した対策がとられてきたが、今回の新型コロナウイルス感染では隔離のタイミングを逸してしまった。最初の感染者が判明した那覇で船室隔離が行われていれば、感染者は200人程度で抑えられていた可能性はある。今後は、船長および船会社がいち早く隔離を決めて実行する体制作りが必要となりそうだ。

一方、大型のクルーズ客船だったからこそ、効果的な隔離ができたという側面も明らかになった。クルーズ客船は〝動くリゾートホテル〟とも言われ、宿泊から食事まで生活に必要なものが揃っている。食事は部屋食だが、昼・夕食は3つほどのメニューから選択ができ、お酒も有料だが提供されたという。事実、隔離日数が進んだ時点で、200人あまりの高齢者に、希望すれば陸上の宿泊施設に移れるという提案があったが、希望者はわずか10人ほどだった。

クルーズ船ではラストインプレッションをとても大事にしている。下船時に乗組員への感謝を示す乗客もいたが、全体としてのラストインプレッションがどうだったかが気になるところである。